



# 仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

## 2026年3月期 決算説明会資料

2026年5月29日

# 目次

---

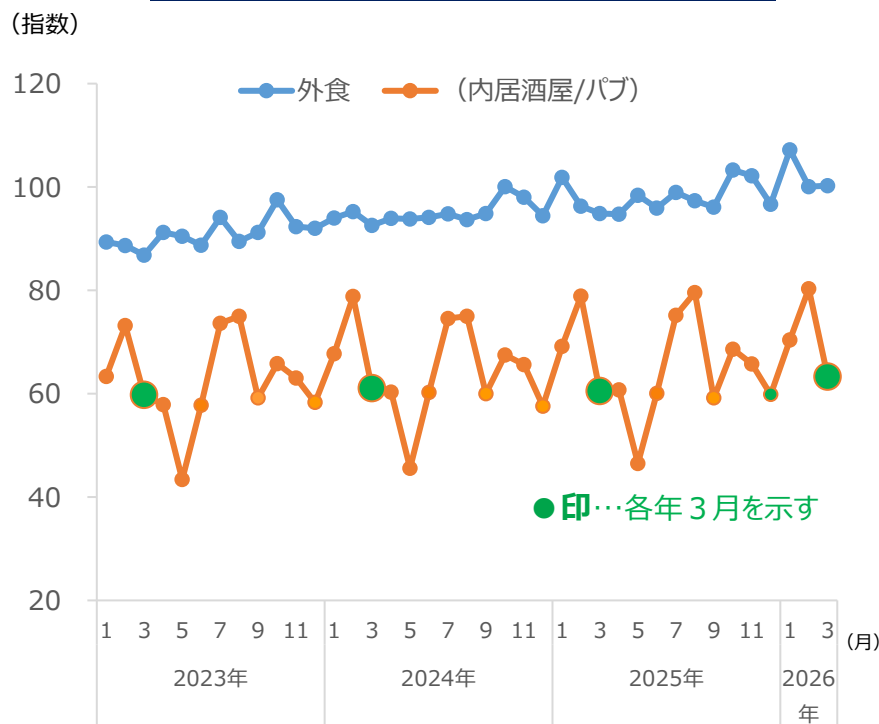
I	2026/3期の決算概況	P 2
II	企業価値向上に向けて	P15
III	2027/3期の業績予想	P21
	参考資料	P25

# I 2026/3期の決算概況

外食来店客数は、新型コロナ禍前の水準に回復も、居酒屋/パブは季節要因で変動あるが依然 低水準

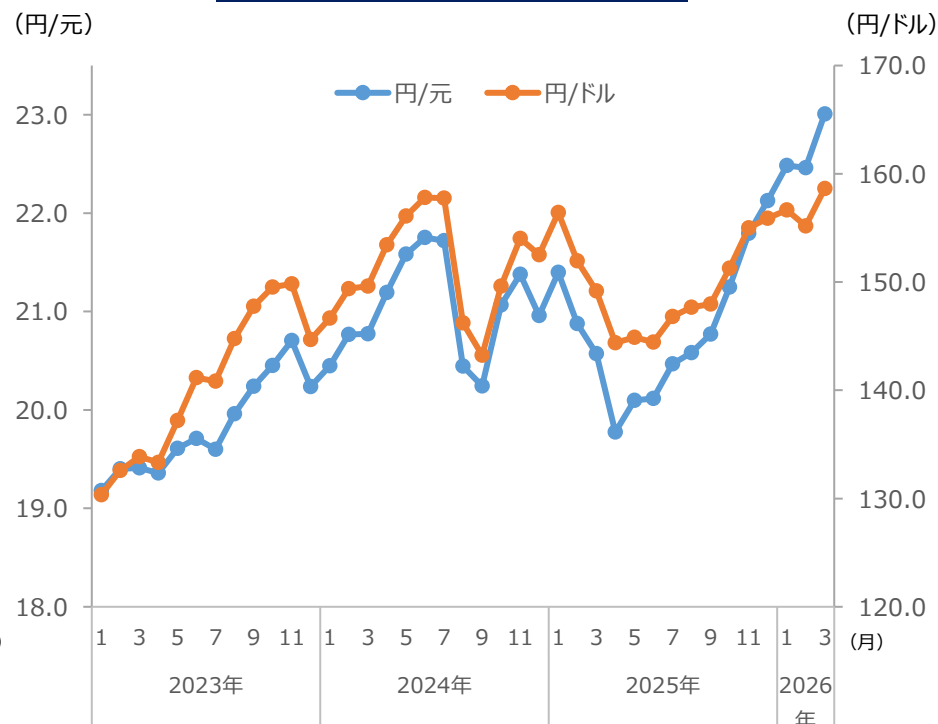
中東情勢の先行き不透明感もあり対ドルは円安基調 人民元に対しては米ドル以上に円安が進行

外食来店客数推移 (全店ベース)  
(2019=100)



(出所) 日本フランチャイズチェーン協会、日本フードサービス協会

為替推移  
(左軸:中国元、右軸:米ドル)



(出所) 日本経済新聞

- ✓ 売上高は、粉末乾燥製品や冷凍製品の自社商材が好調であったことに加え、ヘルスケア受託が復調し3.9%の増収（\*事業継承ベースでは5.0%の増収）
- ✓ 営業利益は、下期に原材料価格の高騰が顕在化するも従前予想をクリア  
価格改定やコスト圧縮などを進めたことにより、19.4%の増益

（単位：百万円、円）

	2025/3期		2026/3期			
	金額	前期比	金額	前期比	従前予想	予想比
売上高	18,701	▲2.3%	19,423	+3.9%	19,700	▲277
営業利益	755	+9.4%	902	+19.4%	900	+2
経常利益	816	+8.1%	866	+6.2%	820	+46
親会社株主に帰属する 当期純利益	319	▲35.5%	554	+73.6%	520	+34
1株純利益	28.08	-	48.74	-	45.68	+3.06
設備投資額	741	+165	427	▲314		
減価償却費	817	▲115	784	▲33		
研究開発費	300	+28	339	+38		

（注\*）中国龍和食品は、25/3期2Q以降持分法適用会社

- ✓ 自社商材は、カaramel製品で前期実績を下回るが、粉末茶や粉末味噌・醤油、および冷凍製品が好調に推移し4.7%増収（自社商材比率は0.6ポイント増加）
- ✓ 受託商材は、龍和食品連結除外の影響あるも、ヘルスケア商材が復調し1.7%増収

(単位：百万円)

	2025/3期		2026/3期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	伸び率
売上高	18,701	100.0%	19,423	100.0%	+722	+3.9%
カaramel製品	4,518	24.2%	4,493	23.1%	▲24	▲0.5%
乾燥製品類	6,953	37.2%	7,143	36.8%	+190	+2.7%
組立製品類	3,240	17.3%	3,523	18.1%	+283	+8.7%
冷凍製品	2,854	15.3%	2,992	15.4%	+138	+4.8%
その他	1,133	6.0%	1,269	6.6%	+135	+11.9%
自社商材	13,191	70.5%	13,816	71.1%	+624	+4.7%
受託商材	5,509	29.5%	5,607	28.9%	+98	+1.7%
海外売上高	656	3.5%	457	2.3%	▲199	▲30.4%

(為替レート)

円/元

円/VND

21.02

0.006187

20.82

0.005910

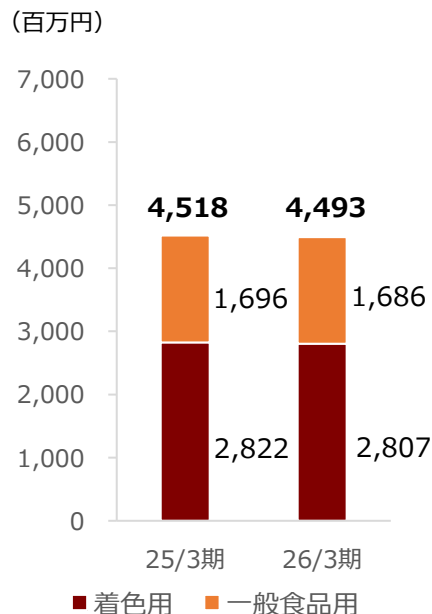
▲0.20

▲0.000277

▲0.95%

▲4.48%

### カラメル製品



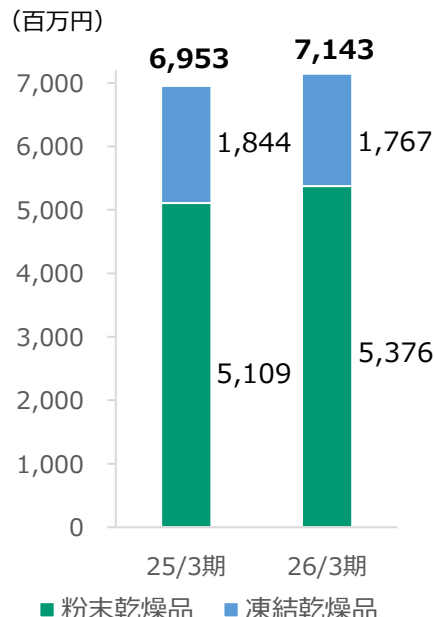
#### 一般食品用

- ・プリン、アイス向け堅調
- ・季節限定商品向けが反動減

#### 着色用

- ・飲料向け需要が増加
- ・海外市場取り込み効果
- ・カレー向けは調整

### 乾燥製品類



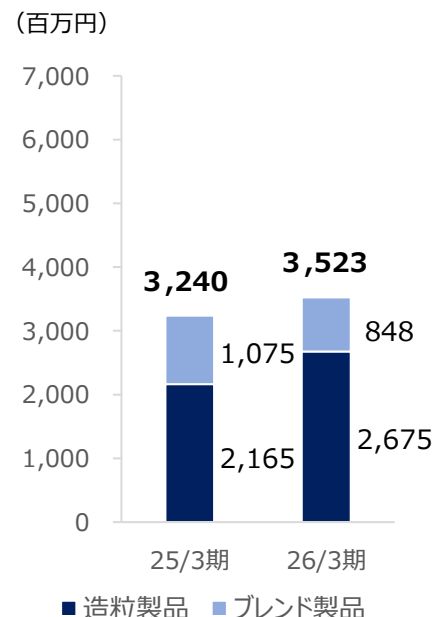
#### 凍結乾燥製品

- ・乾燥野菜は調整
- ・粉末山芋が減少

#### 粉末乾燥製品

- ・粉末醤油、粉末味噌が増加
- ・粉末茶堅調
- ・ベトナム子会社の販売増

### 組立製品類



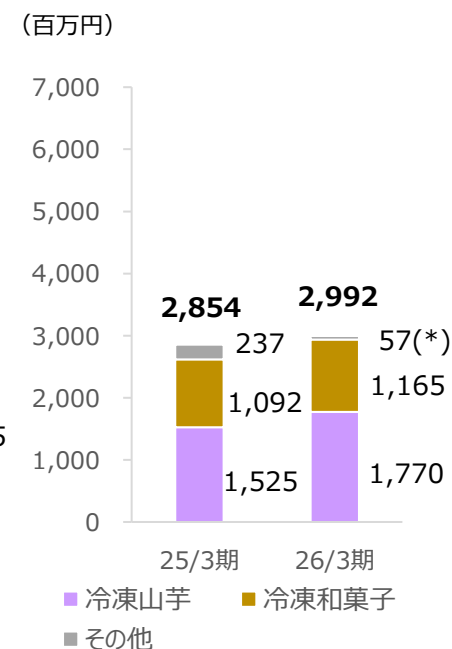
#### ブレンド製品

- ・焼きそばソース向けが好調
- ・調味料関連の受託減少

#### 造粒製品

- ・スポーツサプリ受託の一部が回復
- ・給茶機向け粉末清涼飲料増

### 冷凍製品



#### その他

- ・中国の冷凍デザート減少(\*)

#### 冷凍和菓子

- ・どら焼き・ドームケーキ堅調

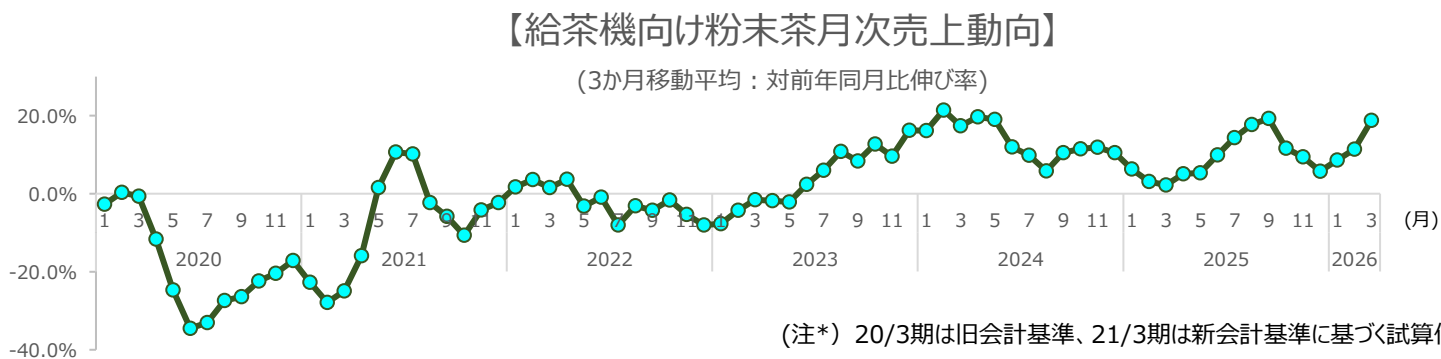
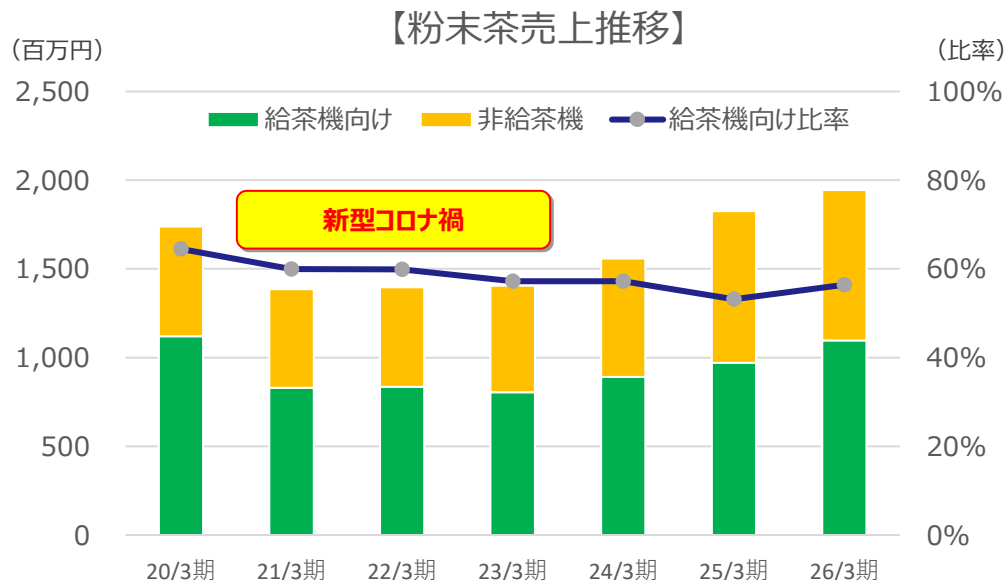
#### 冷凍山芋

- ・外食・CVS向け需要が増加
- ・外食向け提案営業効果

(注\*) 龍和食品の連結除外の影響

### ①粉末茶

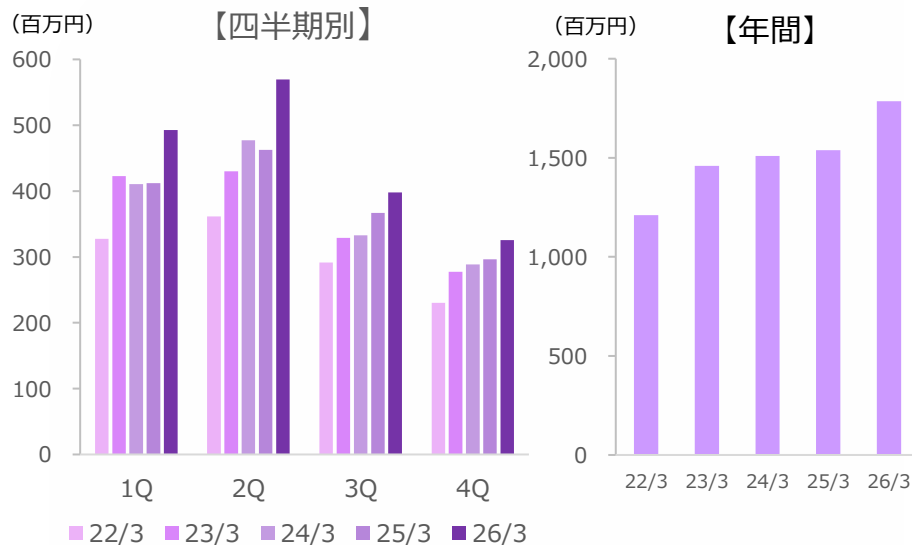
給茶機向けがコロナ禍前の水準まで回復し、売上高は過去最高を更新



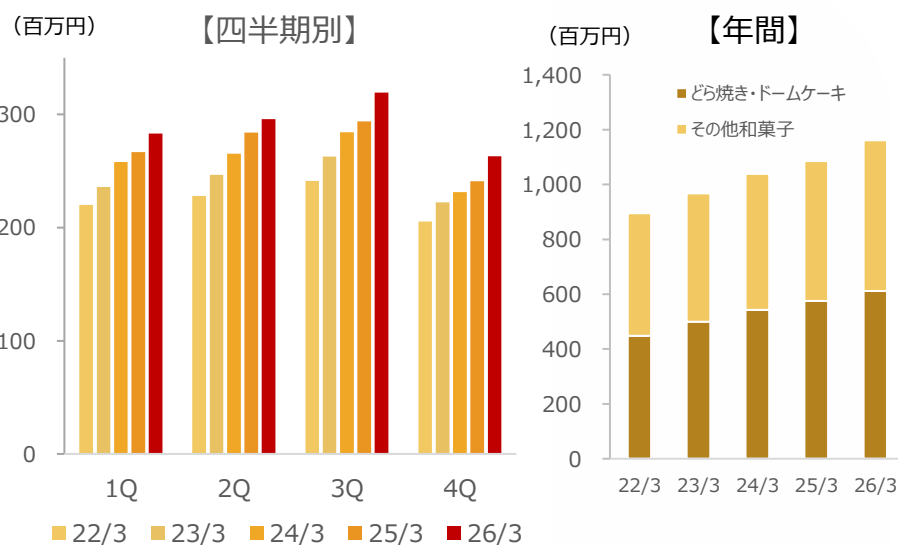
### ②冷凍製品

- ✓ 冷凍山芋は、天候要因や新製品投入効果でCVS及び外食向けが伸長
- ✓ 冷凍和菓子は、新規顧客開拓効果もあり堅調に推移

#### 冷凍山芋売上高

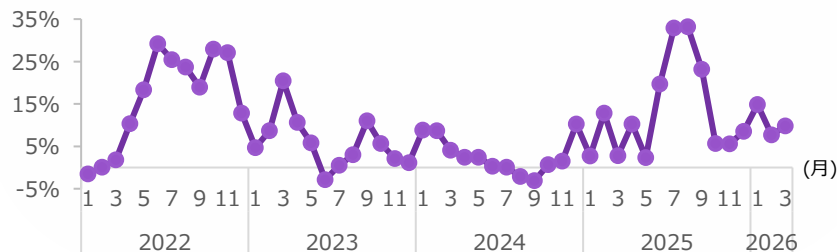


#### 冷凍和菓子売上高



#### 【月次動向】

(3か月移動平均前年同月比伸び率)



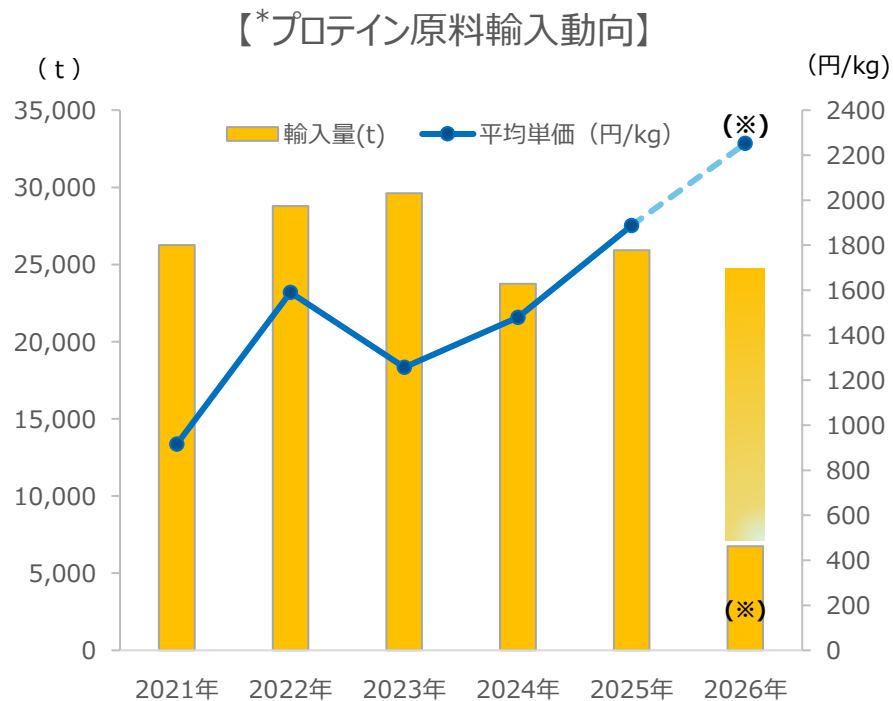
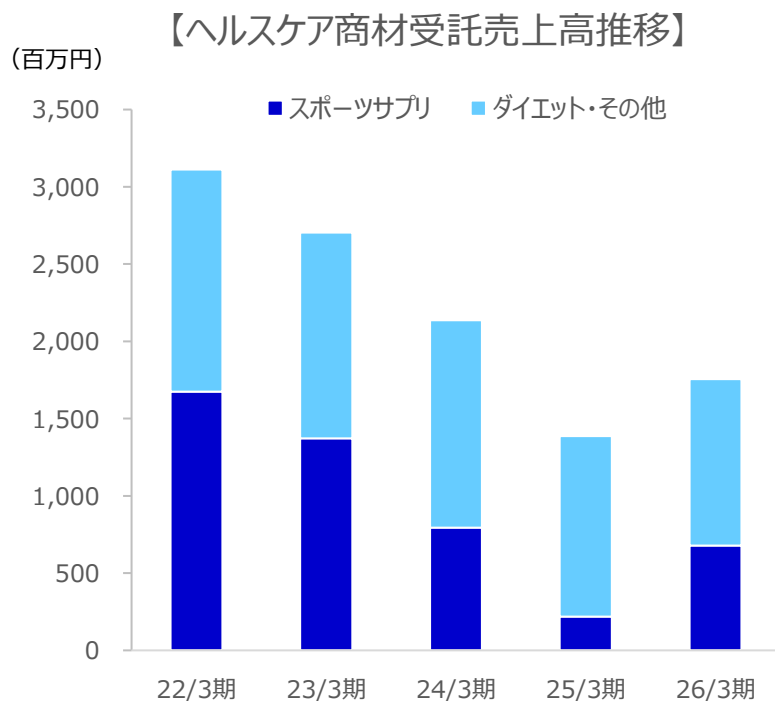
#### 【月次動向】

(3か月移動平均前年同月比伸び率)



### ③ヘルスケア商材受託

- ✓ スポーツサプリは回復傾向にあるも、プロテイン原料の輸入価格は高値続く
- ✓ ダイエット・その他は横ばいで推移



(\*)プロテイン原料：ミルクアルブミン（2以上のホエイたんぱく質の濃縮物を含む）

(※) 2026年の輸入量は3月までの実績を記載（平均単価は1～3月で算出）

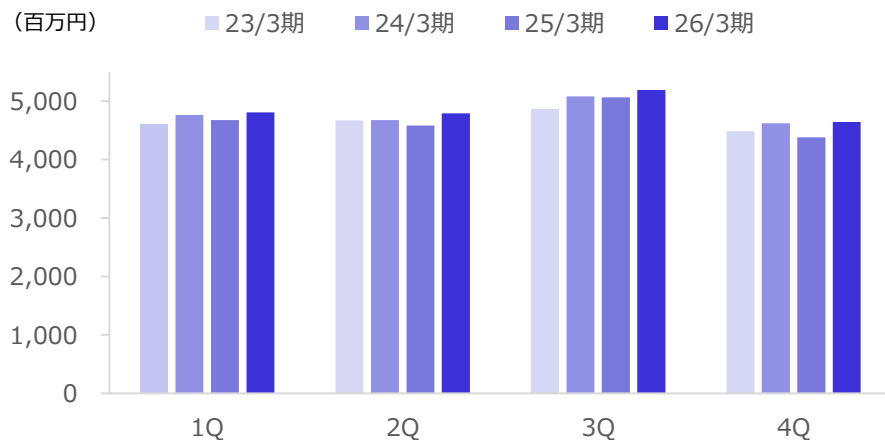
（出所）財務省貿易統計

- ✓ 原価率は、原材料等のコスト増を生産効率の追求などで0.2ポイント改善
- ✓ 運賃や研究開発費が増加するも、増収効果で販管費比率は0.4ポイント低下
- ✓ 海外子会社起因による為替差損を計上
- ✓ 中国子会社の清算益として、特別利益70百万円を計上

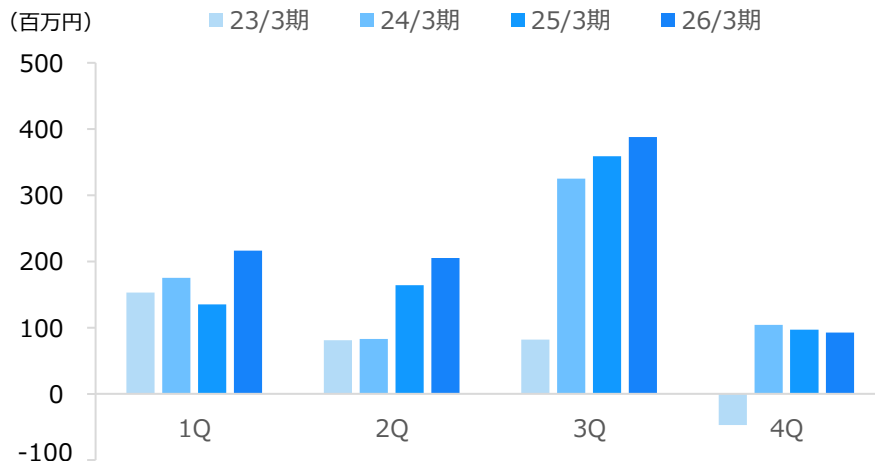
(単位：百万円)

	2025/3期		2026/3期					25/3	26/3
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率			
売上高	18,701	100.0%	19,423	100.0%	+722	+3.9%			
売上原価	14,543	77.8%	15,068	77.6%	+524	+3.6%			
売上総利益	4,157	22.2%	4,355	22.4%	+198	+4.8%			
販管費	3,401	18.2%	3,453	17.8%	+51	+1.5%	<b>営業外損益</b>		
営業利益	755	4.0%	902	4.6%	+146	+19.4%	営業外収益	165 → 117	
営業外損益	60	0.3%	▲35	▲0.2%	▲96	▲158.8%	営業外費用	104 → 153	
経常利益	816	4.4%	866	4.5%	+50	+6.2%	(為替差損益)	61 → ▲64	
特別損益	▲219	▲1.2%	70	0.4%	+290	+132.3%	(金融収支)	25 → 33	
税引前利益	596	3.2%	937	4.8%	+341	+57.2%	<b>特別損益</b>		
親会社株主に帰属する 当期純利益	319	1.7%	554	2.9%	+235	+73.6%	特別利益	23 → 70	
							(子会社清算益)	- → 70	
							特別損失	243 → -	
							(事業整理損)	225 → -	

### 【四半期売上高推移】



### 【四半期営業利益推移】

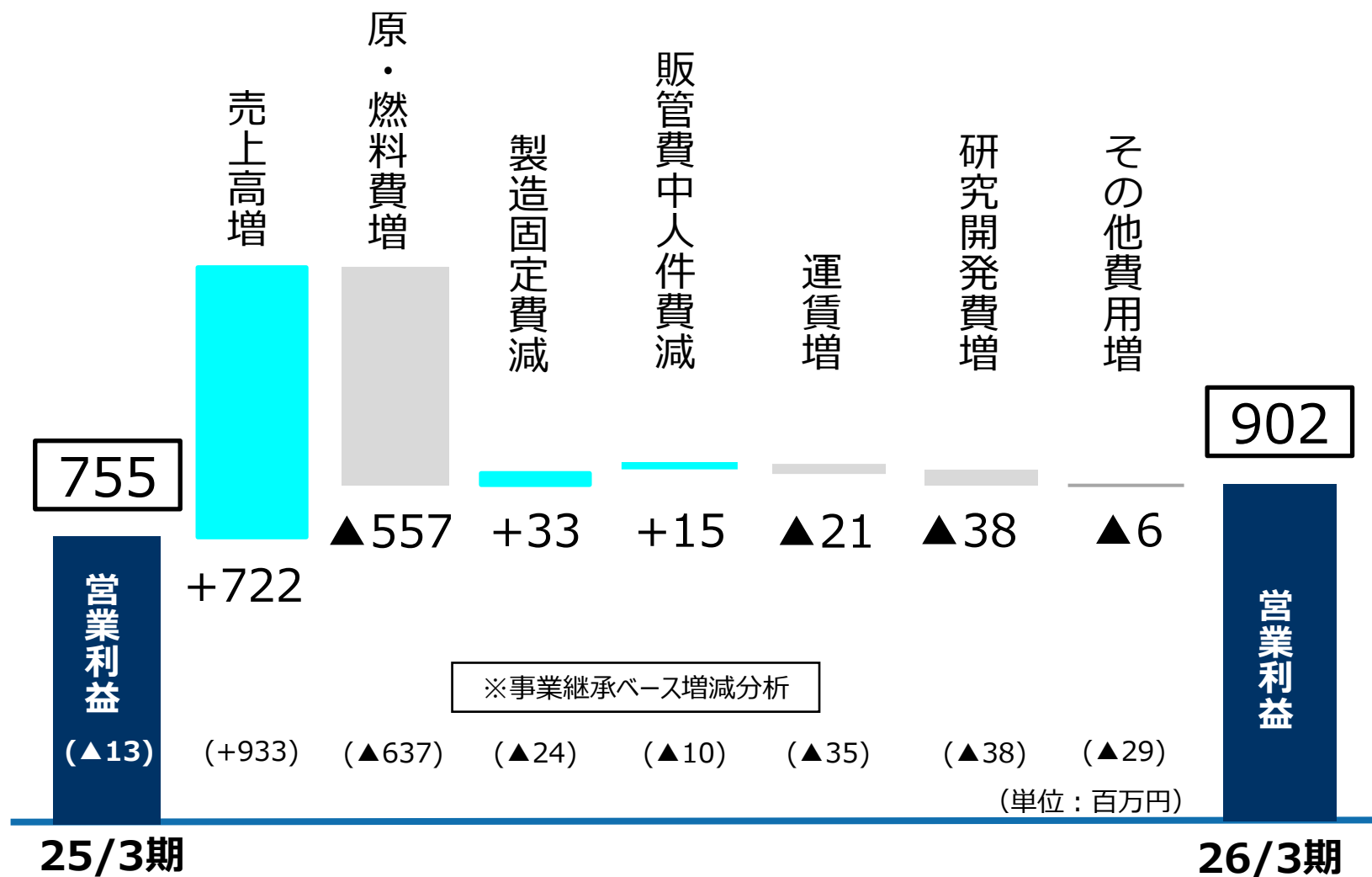


(単位：百万円)

	23/3期				24/3期				25/3期				26/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	4,603	4,669	4,868	4,479	4,765	4,677	5,077	4,617	4,677	4,580	5,062	4,381	4,804	4,789	5,189	4,640
キャラメル製品	988	998	1,076	958	1,038	1,019	1,176	998	1,091	1,131	1,277	1,017	1,084	1,115	1,258	1,036
乾燥製品類	1,438	1,381	1,616	1,480	1,416	1,495	1,683	1,590	1,667	1,702	1,875	1,708	1,803	1,707	1,864	1,768
組立製品類	1,046	1,095	938	910	1,007	811	984	960	780	722	910	827	849	770	1,010	893
冷凍製品	845	923	906	851	1,035	1,054	895	796	871	761	672	549	787	877	729	599
その他	283	270	330	277	267	296	338	273	267	262	326	278	279	318	327	342
営業利益	153	81	82	▲46	175	84	325	105	135	164	359	96	216	205	388	92

# 営業利益増減分析

2026/3期実績



(注※) 1 Qで龍和食品の連結除外の影響が残るため比較障害あり  
 上表の( )内数値は事業継承ベースでの増減額

# 要約貸借対照表

2026/3期実績

(単位：百万円)

	2025/3末	2026/3末	増減額
<b>流動資産</b>	<b>11,173</b>	<b>11,803</b>	<b>+629</b>
現金及び預金	3,081	3,378	+296
受取手形及び売掛金※	4,157	4,245	+87
棚卸資産	3,779	4,052	+272
<b>固定資産</b>	<b>9,486</b>	<b>9,640</b>	<b>+153</b>
有形固定資産	5,069	4,764	▲305
無形固定資産	550	449	▲101
投資その他資産	3,866	4,426	+560
<b>資産合計</b>	<b>20,660</b>	<b>21,444</b>	<b>+783</b>

<b>棚卸資産</b>	<b>+272 百万円</b>
・商品及び製品	+245 百万円
・仕掛品	▲83 百万円
・原材料及び貯蔵品	+110 百万円

※電子記録債権を含む

<b>流動負債</b>	<b>6,682</b>	<b>6,657</b>	<b>▲24</b>
支払手形及び買掛金※	2,204	2,304	+99
短期借入金	2,898	2,823	▲74
<b>固定負債</b>	<b>2,120</b>	<b>2,020</b>	<b>▲100</b>
長期借入金	572	350	▲222
<b>負債合計</b>	<b>8,802</b>	<b>8,678</b>	<b>▲124</b>
<b>純資産合計</b>	<b>11,858</b>	<b>12,766</b>	<b>+908</b>

<b>有利子負債</b>	<b>▲297 百万円</b>
・短期借入金	▲74 百万円
・長期借入金	▲222 百万円

⇒自己資本比率 **59.5%**  
(+2.2ポイント)

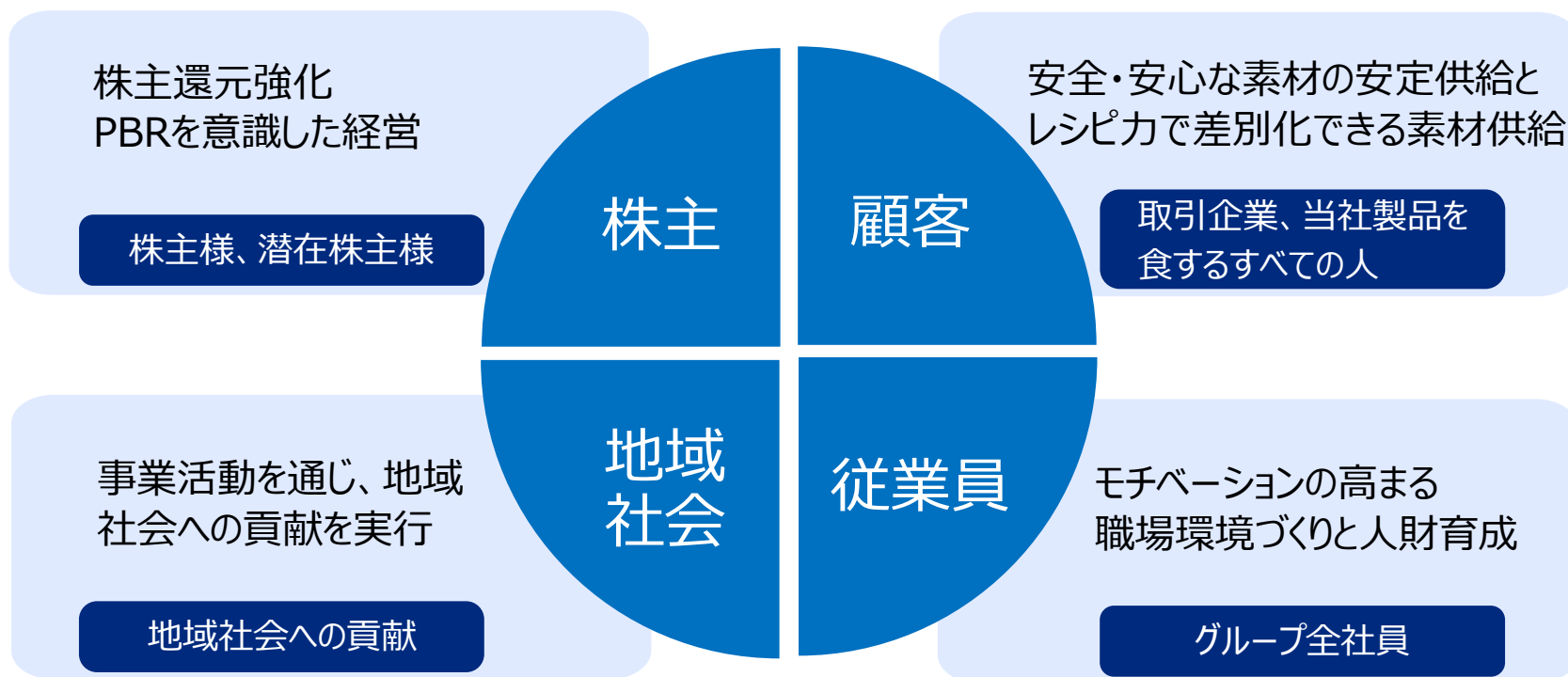
※電子記録債務を含む

(単位：百万円)

	2025/3期	2026/3期
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>1,010</b>	<b>1,227</b>
税金等調整前当期純利益	596	937
減価償却費	817	784
売上債権の増減額（▲は増加）	420	▲92
棚卸資産の増減額（▲は増加）	▲325	▲273
仕入債務の増減額（▲は減少）	▲271	102
法人税等の支払額	▲308	▲286
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	<b>▲1,411</b>	<b>▲423</b>
有形固定資産の取得による支出	▲463	▲417
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	<b>▲63</b>	<b>▲512</b>
有利子負債の純増減額	151	▲297
配当金の支払額	▲170	▲171
<b>現金及び現金同等物 期中増減額</b>	<b>▲417</b>	<b>296</b>
<b>現金及び現金同等物 期末残高</b>	<b>3,016</b>	<b>3,313</b>

## Ⅱ 企業価値向上に向けて

100年企業に向けた強固な基盤構築



より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、  
収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす

## 基本戦略

### グループ経営力強化

- ◆ 単体経営からの脱却
- ◆ 子会社の管理強化

### 自社商材拡販

- ◆ 開発強化
- ◆ 提案営業強化

### 海外市場開拓

- ◆ 東南アジア市場
- ◆ 東アジア市場

\* 営業キャッシュフローの最大化を目指す

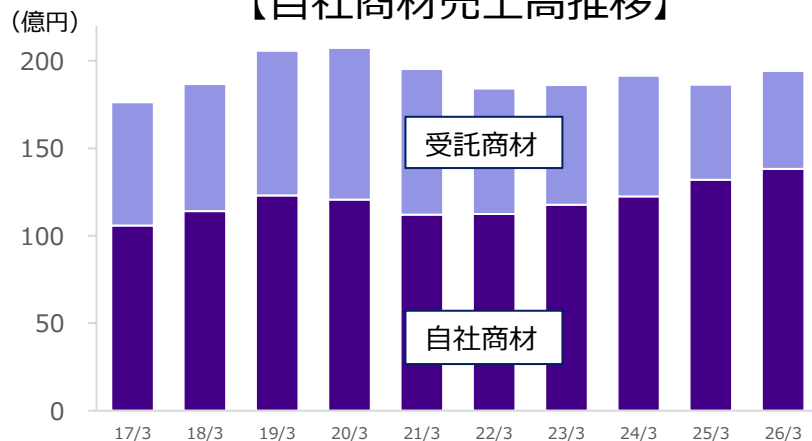
成長投資資金の確保と還元強化

注\*) 簡易営業キャッシュフロー : 営業利益 + 減価償却費  
( EBITDA )

当面の対応強化

海外事業の収益貢献化

【自社商材売上高推移】



(注\*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

【海外市場向け売上高推移】

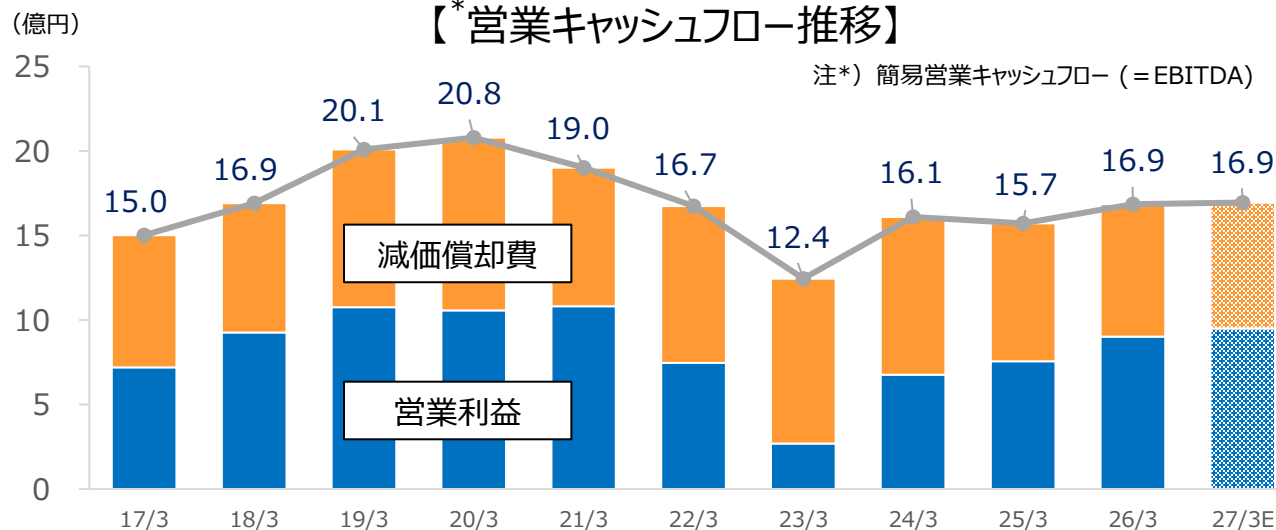
(単位：百万円)

	21/3*1	22/3	23/3	24/3	25/3*2	26/3
海外売上高	1,304	1,338	1,520	1,795	656	457
海外売上比率	7.2%	7.3%	8.2%	9.4%	3.5%	2.3%
海外子会社	1,281	1,315	1,496	1,767	632	426
輸出	23	23	22	27	24	31

(注\*1) 21/3期は新会計基準に基づく試算値

(注\*2) 龍和食品を25/3期2Qから連結除外

【\*営業キャッシュフロー推移】



前期の重点施策

① 高騰する原材料費に対応した適正な価格転嫁（対象製品個別に対応）

年間を通じた冷凍山芋製品の原料価格の高止まり、下期は粉末茶原料茶葉が急騰

➡ 適正な価格改定も含め原価率圧縮に向けた対応を順次進行中

② 新規自社商材の開発推進と提案営業による拡販強化

➡ 通期の新規商材上市数は57品であり前期比減少も、売上高貢献度は前年同等

➡ 各種展示会出展を最大限活用し、レシピ提案等を積極的に進めた結果、新規採用件数が増加

③ 中国事業の再構築に伴う海外戦略の見直しで、ベトナム事業の黒字化

中国事業

➡ 製造子会社の福州仙波\*の清算を決定し、上海に貿易販売子会社を新設

福州仙波\*：福州仙波糖化食品有限公司

ベトナム事業との連携でシナジー強化 ⇒ 海外事業の収益改善に向け取り組み中

ベトナム事業

➡ 生産設備を増強し、海外事業の生産拠点としての生産基盤を強化  
( STVC\*に、2,280千USD (約3億5千万円) の増資を10月に実行 )

STVC\*：SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

海外事業再構築も、ベトナム事業の黒字転換達成できず

中国事業

- ・福州仙波を清算・解散し、5月に販売子会社:上海永仙研食品有限公司を設立
- ・当面は福州仙波既存取引先との関係性強化を重点課題とする

ベトナム事業

- ・増資により生産設備を増強し、海外事業の生産拠点としての生産基盤を強化
- ・中国子会社との連携ならびに海外輸出増で営業利益マイナスを圧縮

【海外事業収益】

(単位:百万円)

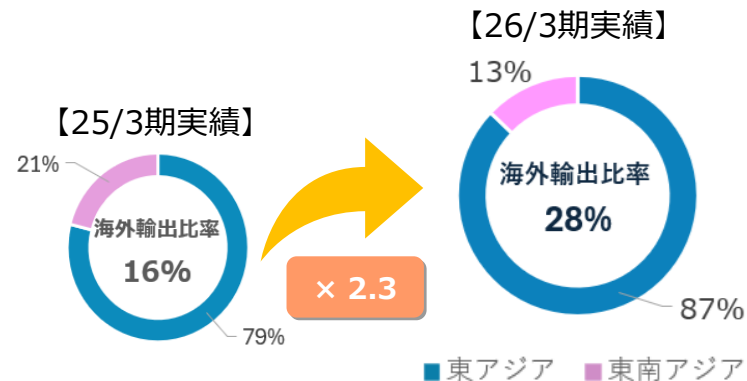
	24/3期	25/3期	26/3期		27/3期
			実績	予想	
<b>中国事業</b>					
売上高	(※1) 2,628	131	79	128	64
営業利益	10	▲33	▲14	▲19	0
<b>ベトナム事業</b>					
売上高(※2)	256	289	346	563	566
営業利益	▲50	▲79	▲37	35	67
<b>【為替レート】</b>					
(円/元)	19.82	21.02	20.82	20.70	22.60
(円/VND)	0.006022	0.006187	0.005910	0.006038	0.005765

(※1) 龍和食品の実績を含む (25/3期1Qに連結除外)

(※2) 連結グループ内取引分は、相殺消去につき売上高実績に含めず

【ベトナム国外輸出状況】

(現地通貨出荷金額ベース)



前期比2.3倍、当初計画比1.5倍

## Ⅲ 2027/3期の業績予想

### 中東情勢の影響で原材料・燃料費高や包装資材調達不安などの懸念要因を織り込む

- ✓ カaramel製品は、新製品開発と提案営業推進でデザート向け販売増を計画
- ✓ 乾燥製品類は、粉末茶が堅調、粉末調味料の需要増加を見込む
- ✓ 組立製品類は、ヘルスケア商材受託加工が復調も前期並みを予想
- ✓ 冷凍製品は、冷凍山芋は新製品投入で伸長を見込む、冷凍和菓子は堅調

(単位：百万円)

	2026/3期			2027/3期予想			
	上期	下期	通期	上期(予)	下期(予)	通期(予)	伸び率
売上高	9,594	9,829	19,423	9,700	10,400	20,100	+3.5%
カaramel製品	2,199	2,294	4,493	2,150	2,450	4,600	+2.4%
乾燥製品類	3,511	3,632	7,143	3,500	3,850	7,350	+2.9%
組立製品類	1,619	1,903	3,523	1,600	1,950	3,550	+0.8%
冷凍製品	1,664	1,328	2,992	1,750	1,450	3,200	+6.9%
その他	598	670	1,269	700	700	1,400	+10.3%

- ✓売上高は、提案営業の推進と適正な価格改定を進め3.5%増収を計画
- ✓営業利益は、中東情勢の悪化で利益下押し圧力が高まっているが、  
原材料価格高騰への対応や経費削減等を全社一丸で取り組み、5.3%増益を見込む
- ✓経常利益は、為替差損の解消を見込み10.8%の増益を予想

(単位：百万円、円)

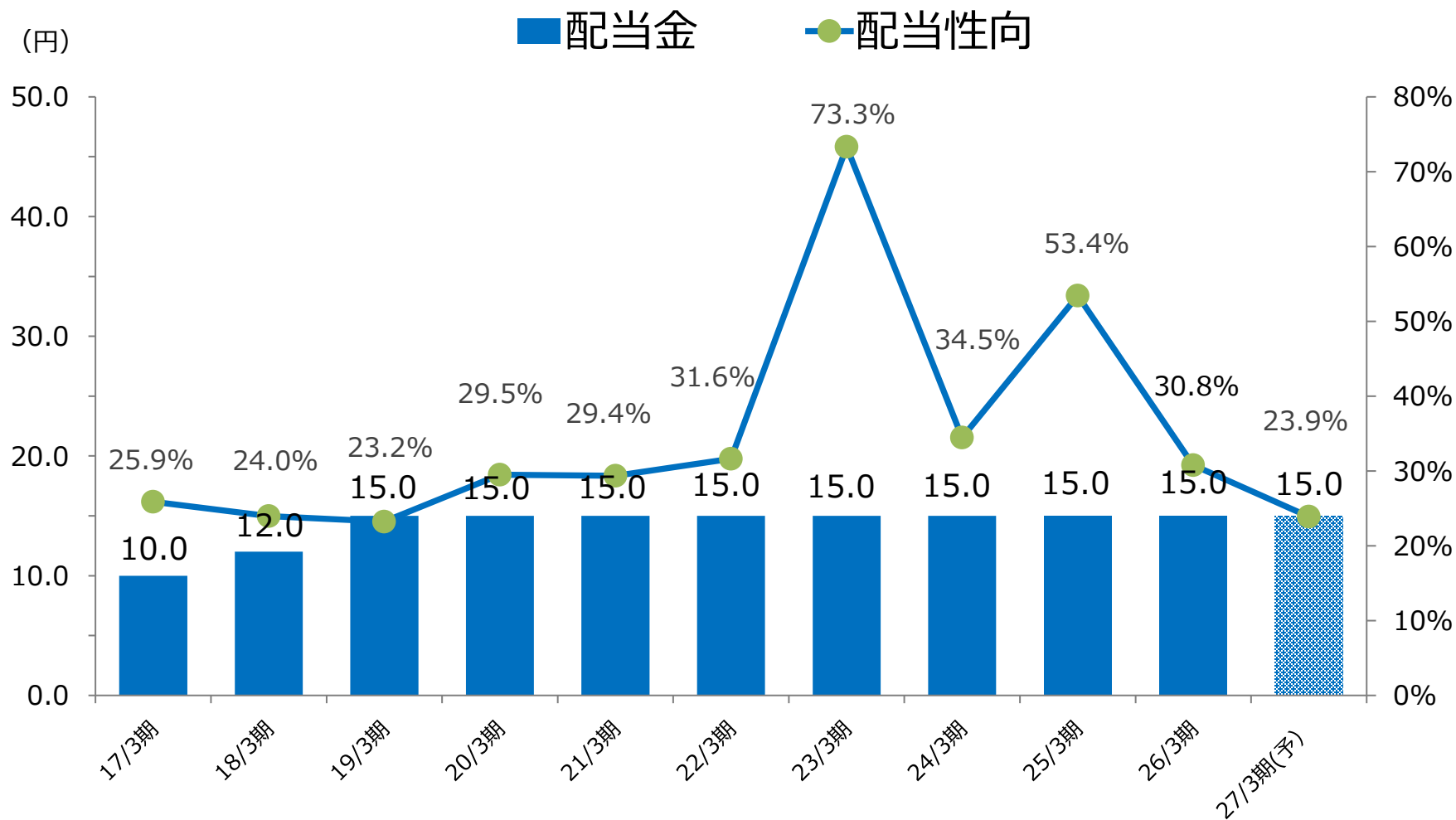
	2026/3期			2027/3期予想			
	上期	下期	通期	上期 (予)	下期 (予)	通期 (予)	伸び率
売上高	9,594	9,829	19,423	9,700	10,400	20,100	+3.5%
営業利益	421	481	902	400	550	950	+5.3%
経常利益	272	593	866	400	560	960	+10.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	164	390	554	270	445	715	+28.9%
1株純利益	14.45	34.29	48.74	23.72	39.05	62.77	-
設備投資額			427			873	
減価償却費			784			743	
研究開発費			339			322	

〈為替レート前提〉 26/3期：20.82円/元、149.71円/ドル、 27/3期(予)：22.6円/元、157円/ドル

# 配当金予想

15円/株を据え置く

【2027/3期予想】



---

---

## 參考資料

---

---

- 創業商材。国内シェアトップ
- 焙焼技術で着色用と一般食品用を作り分け
- 高付加価値のデザート向け新製品開発と提案営業に注力
- 海外需要の取り込みで成長を目指す

着色用

- ・清涼飲料やアルコール飲料等の飲料向け
- ・ソースやタレ類、カレー等に幅広い需要

一般食品用

- ・プリン等のデザート向けやココ味調味料向けが主力
- ・高級洋菓子やアイスクリーム向け需要が拡大

一般食品向け製品例

キャラメルソース  
(ボトル品) (顆粒品)



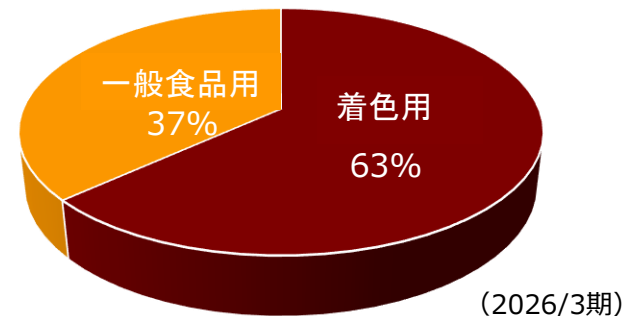
キャラメルソース  
(タブレット)



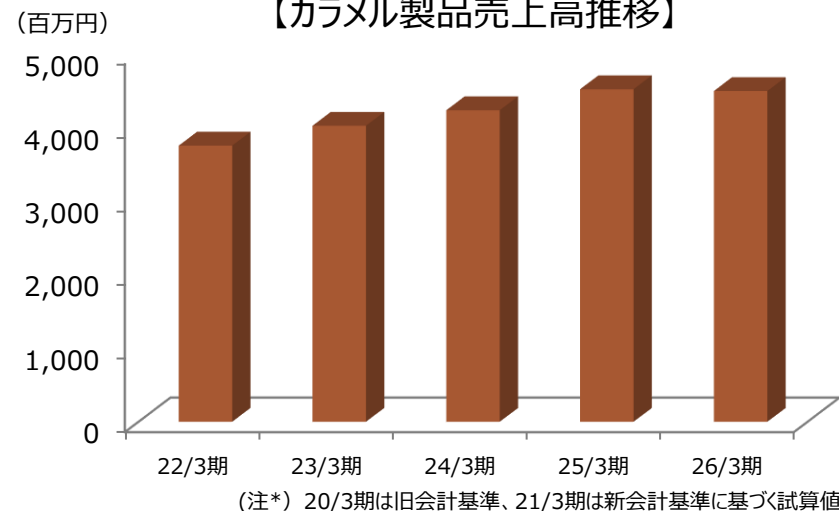
キャンディー・チップ  
(顆粒品)



【用途別キャラメル製品売上構成】



【キャラメル製品売上高推移】



- 売上高の約80%は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける
- 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料素材（醤油や味噌）などを販売
- 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力

当社の主力製造技術

粉末製品

**スプレードライ(SD)技術**

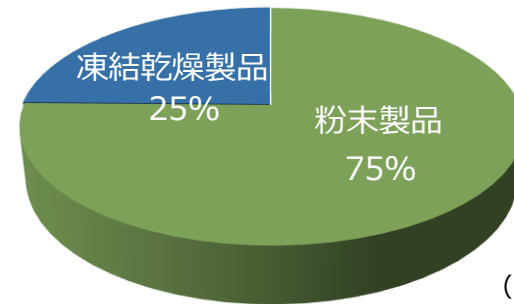
液状化した原料を霧状にし、加熱空気ですべて瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

凍結乾燥製品

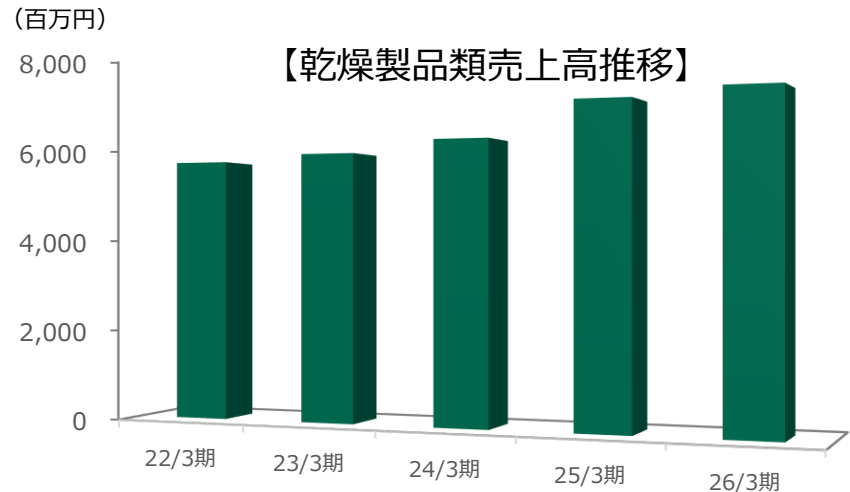
**フリーズドライ(FD)技術**

凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

【乾燥製品類売上構成】



【乾燥製品類売上高推移】



- 造粒製品とブレンド製品ともに受託加工が中心
- 溶け易さなどの品質とおいしさの両方を追求、レシピカを活かした提案営業に強み
- ここ数年はスポーツサプリ商材の受注が大きく減少も、26/3期は復調

造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使い易い最終商品へ仕上げる。

造粒製品

スープ類、ヘルスケア、スポーツ飲料、ココア等



ブレンドとは

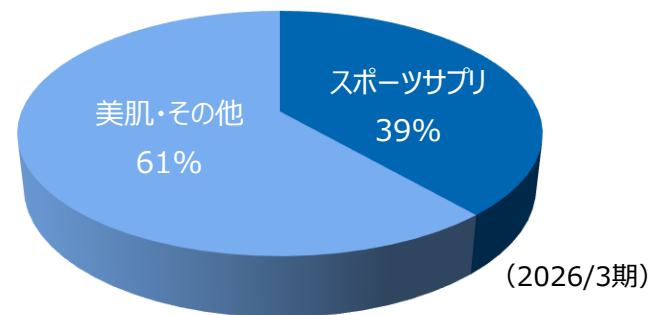
各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

ブレンド製品

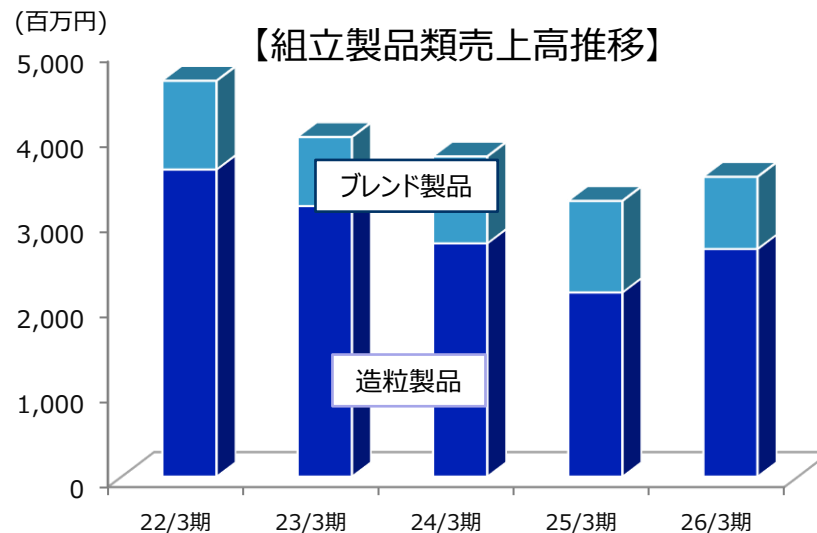
粉末ソース、粉末調味料、唐揚粉、みそ汁等



【ヘルスケア商材の売上構成】



【組立製品類売上高推移】



- 冷凍和菓子はメディアケア市場向けを中心に、約50種類を販売
- 冷凍山芋は業務用・CVS向けが中心。取扱量は業界2位
- その他は、中国龍和食品の連結除外により減少

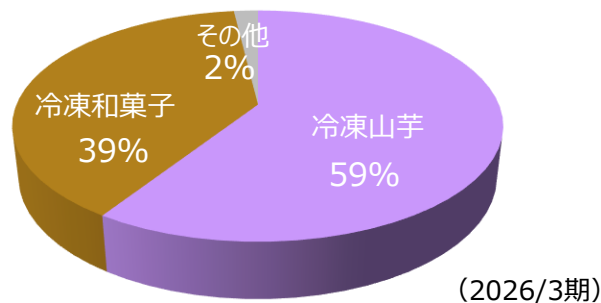
冷凍和菓子



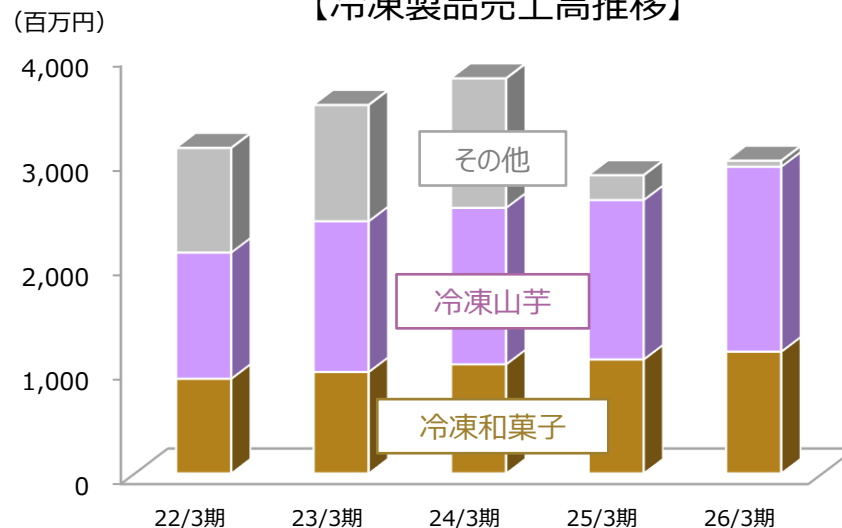
冷凍山芋



【冷凍製品売上高構成比】

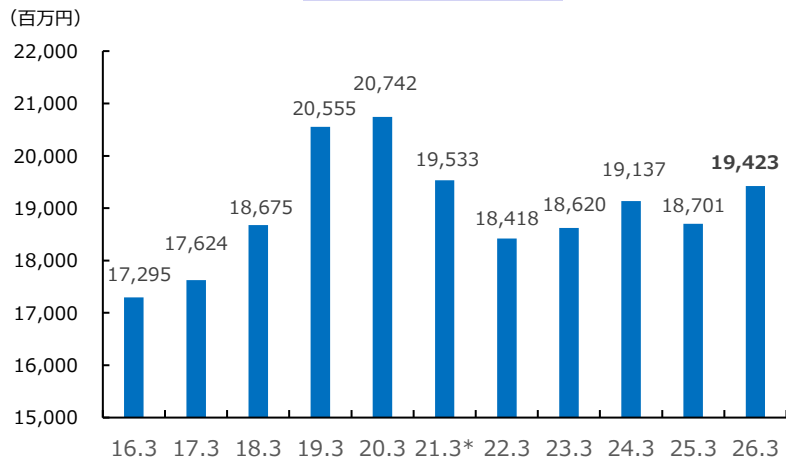


【冷凍製品売上高推移】

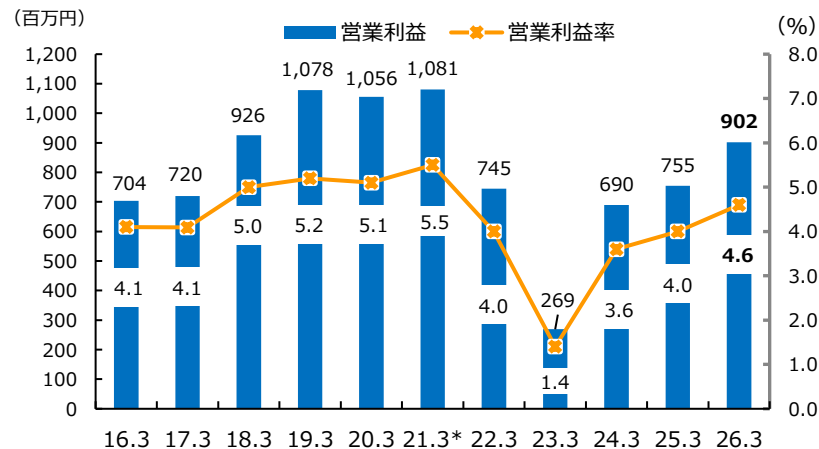


# 主要財務データ①

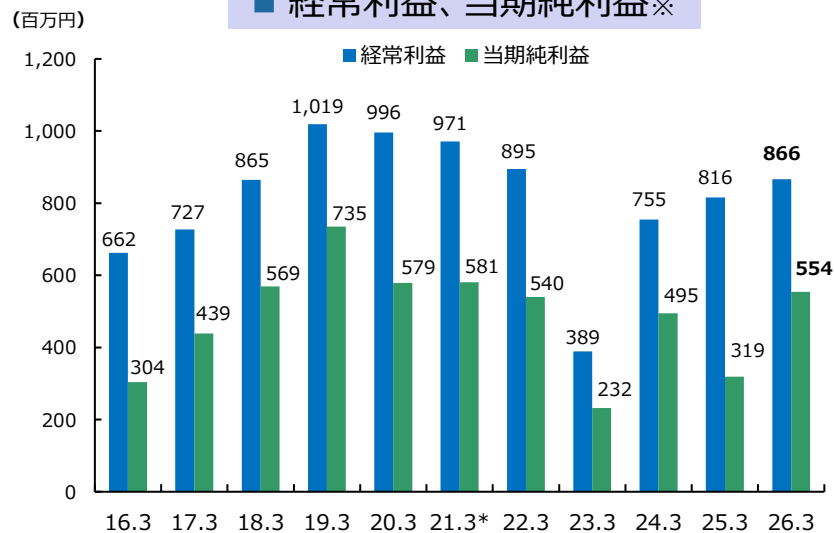
## 売上高



## 営業利益

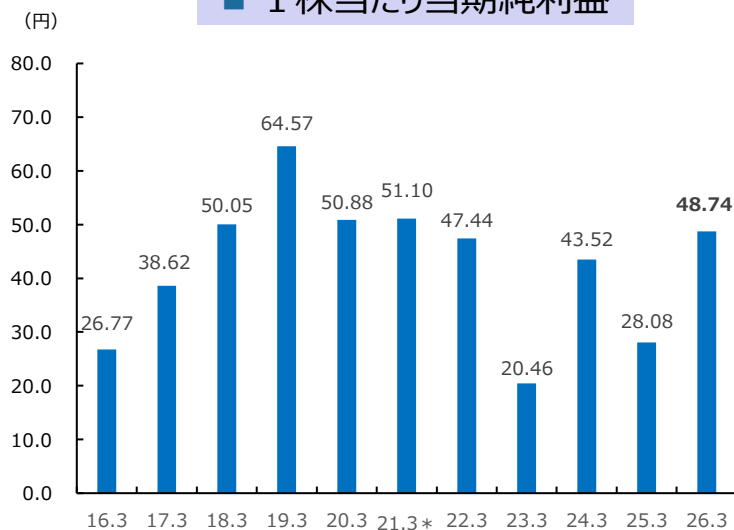


## 経常利益、当期純利益※



(注※) 親会社に帰属する当期純利益

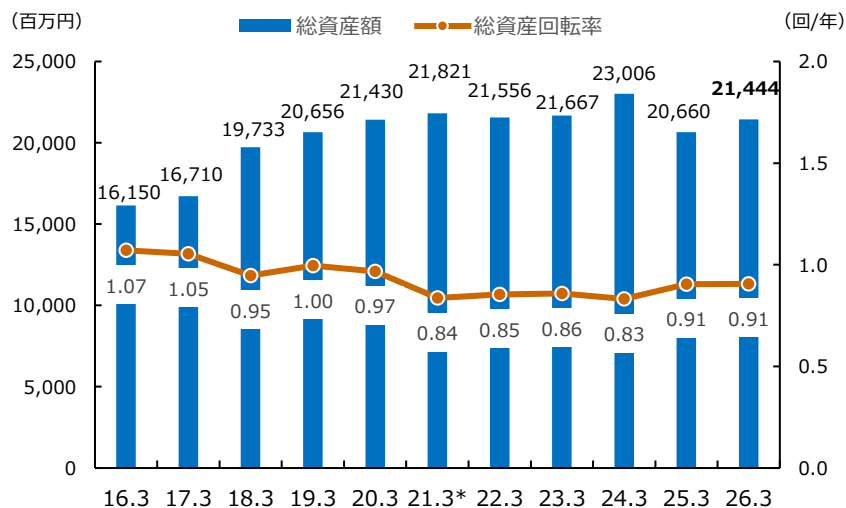
## 1株当たり当期純利益



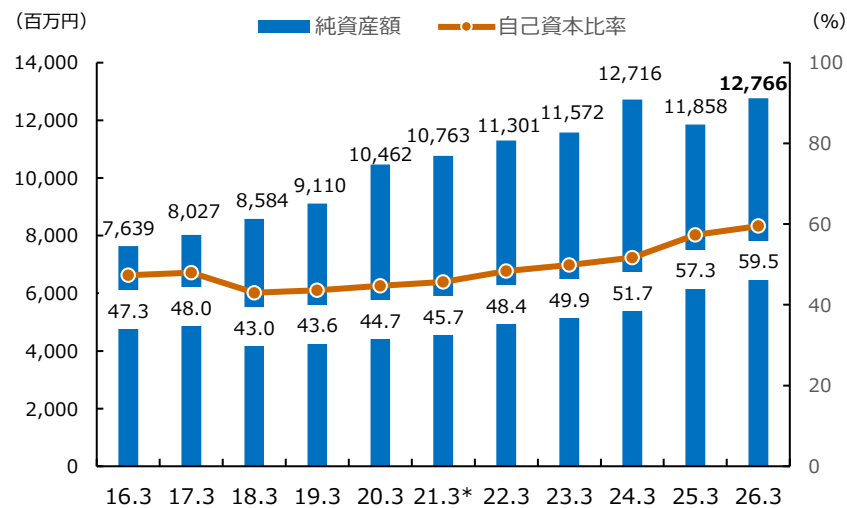
(注\*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

# 主要財務データ②

## ■ 総資産、総資産回転率



## ■ 純資産額、自己資本比率



## ■ 1株当たり純資産額



(注\*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

〈お問い合わせ先〉  
仙波糖化工業株式会社  
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : [ir@sembatohka.co.jp](mailto:ir@sembatohka.co.jp)

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。